

I 本校の研究

1 研究主題

「各教科等を合わせた指導における、子どもが主体的に活動できる確かな授業づくり」
ー学習評価に基づく授業改善を通してー

2 研究主題について

本校は、一昨年より「各教科等を合わせた指導における、子どもが主体的に活動できる授業づくり」を研究テーマに三カ年計画で取り組んでいる。

一年目は、平成29年4月に公示された幼稚園教育要領小学部・中学部学習指導要領（以下、小・中学学習指導要領と表記する）に示された内容に則って、本校の教育課程の中心に据えられている「合わせた指導」について、その目標と評価に重点を置いて整理及び見直しを行った。成果としては、子どもの目標を立てる際に、評価規準と評価基準を設定したことで、授業者が同じ視点で評価することができ、評価の妥当性を高めることができた。しかし、「合わせた指導」において、育成を目指す資質・能力の三つの柱を明確にした目標設定や、各教科等の目標に準拠した評価にまでは至らず、学習評価を授業改善につなげていくことの必要性を確認した。

一年目の課題を踏まえ、二年目の昨年度は、学習評価を重視したPDCAサイクルの構築を目指し、その過程を可視化し、「合わせた指導」の授業づくりに役立てるツールとしてPDCAサイクルシート（以下「Pシート」）を作成した。成果としては、「Pシート」を活用した授業研究会を通して、「合わせた指導」に各教科等が「含まれている」という捉えを、「各教科等を合わせる」ことで効果的に指導を行うという捉えに変換していく素地ができていった。各教科等の視点をもった「合わせた指導」の授業づくりにつなげていくためには、個の「Pシート」で示したC（学習評価）やA（授業改善）を集約し、それらを根拠として次の単元の評価規準、内容、構成等を検討していく必要であることが確認できた。今後、授業づくりの十分な検討をすすめていく上で、「Pシート」の集約の手順や情報の整理などについて課題が残った。

そこで、今年度は、「Pシート」を活用し、学習評価に基づく根拠のある「合わせた指導」の授業改善と授業づくりのリニューアルに取り組んでいく。従前の「合わせた指導」の授業づくりでは、子どもの興味関心に基づき、子どもたちの主体的な姿を目指して授業内容を考えて（P）、実践を行う（D）、というように、実践に重きを置いて取り組んできた。しかしながら、評価においては共通の観点が十分ではなく、授業者の主観や印象にたよった評価になりがちであり、評価を授業改善や子どもの学びの積み重ねに十分に反映できていない課題があった。本研究の授業づくりのリニューアルでは、P（計画）を立てる際に、子ども一人一人の育成を目指す資質・能力を明確にし、子どもの興味関心に加え、合わせることで効果があると思われる各教科等の目標や内容も踏まえて単元の評価規準を観点別学習状況評価の3観点で設定をする。そして、単元の活動を通して、各教科等の内容を主体的に学ぶ手立てについて考え、D（実践）をする。また、C（学習評価）では、Pで設定した評価規準に対して、観点別学習状況の評価として、単元における個の評価基準を設定し、指導と評価の一体化を図る。A（授業改善）では、学んだ各教科等の内容を今後どのように学んでいくのかを、指導形態や活動内容、手立て等の視点で記載する（「Pシート」を活用）。さらに、PDCAサイクルの構築の観点から、個々のA（授業改善）を集約し、「合わせた指導」で学ぶ各教科等の内容（評価規準）や効果を次のP（計画）へとつなげる（「単元計画表」で集約）。以上のように「合わせた指導」の授業づくりにおいて、「Pシート」を活用

し、特に学習評価を重視し授業改善に取り組んでいくことで、今まで以上に子どもの主体的な活動を、根拠に基づいて育むことができると考えた。また個の「Pシート」を積み重ねていくことで、子どもの学びの状況（何がどれだけ身に付いたか）を整理でき、加えて、全職員が同じツールを活用することで、目的や視点を共有して「合わせた指導」の授業づくりに取り組むことができると考えている。さらに、このような「合わせた指導」の授業づくりのリニューアルを通して、「合わせた指導」と「教科別の指導」の目標や内容の関連性を含めた教育課程の整理・検討を行い、教育活動の質の向上につなげたい。

3 今年度の研究の目的

- 「Pシート」を活用した学習評価に基づく授業改善を通しての「合わせた指導」の授業づくりにより、知的障害のある子どもが主体的に活動でき、育成を目指す資質・能力を育むことができる。その授業づくりのシステムを確立することで、全職員が目的や視点を共有して、「合わせた指導」の授業づくりを行う。

4 研究の取り組み

・単元計画表の作成と活用

各学部の「合わせた指導」で単元計画表を作成する際に、単元を構成する各教科等と、各教科等を合わせることで期待する効果を授業者で検討し、記載する。単元終了後に、各教科等を合わせたことの効果を、各教科等の目標や内容が達成できたかという視点や、子どもが主体的に活動できたかどうかという視点で検証を行う。

単元後には、個の「Pシート」のC（学習評価）やA（授業改善）を集約し、本単元で学んだ各教科等を今後どのように学んでいくか記録し、次の単元のP（授業計画）へつなげる。

・「Pシート」の作成と活用

単元全体の評価基準と個の評価基準において、各教科等の内容を追加し、何がどこまでどのように身に付いたかを記録する。

年度末には、本校の「合わせた指導」で効果的に学ぶことができる教科等の内容を整理し、「各教科等内容表」としてまとめ、次年度につなげる。

・学部授業研究会

1学期に各学部で1回学部授業研究会を行い、単元計画表や「Pシート」を活用した授業づくりができていないか協議し、講師より指導を受ける。

・公開授業研究会

公開授業研究会を行い、内外の参観者から意見やご指導を受け、三カ年の研究をまとめる。

5 研究のすすめ方

（1）研究組織

<全体研究会> 全校、各学部の研究のまとめと次年度の取り組みについての協議

<研究推進委員会> 研究の内容、方向性、紀要の内容、公開授業研究会について検討

構成メンバーは校長、教頭、主幹教諭、教務主任、副教務主任、学部主事、研究推進係

<研究推進係会> 研究計画の作成・推進とりまとめ、紀要作成、研究資料の整理と保管

構成メンバーは研究主任と各部の研究推進係。

<学部研究会> 各学部で計画し運営する。